

NEWSLETTER

No.61

11 May 2015

・教員の研究室と電話番号・メールアドレス	1
・2015年度教員在室時間表	2
・2014年度国土館大学地理学会冬季巡検報告	3
・活躍する卒業生（5）	5
・就職活動体験談（2014年度：その2）	6
・大学院生紹介	8
・国土館大学地理学教室の Facebook が立ち上がりました	9

【教員の研究室と電話番号・メールアドレス】

※地理・環境専攻専任教員は全員世田谷キャンパス(世田谷・梅ヶ丘校舎)にいます

	研究室の場所	研究室電話番号	電子メールアドレス
野口	世田谷校舎 10号館 2F1004 研究室	03-5481-3246	noguchi@kokushikan.ac.jp
長谷川	世田谷校舎 10号館 2F1003 研究室	03-5481-5247	hasegawa@kokushikan.ac.jp
岡島	世田谷校舎 10号館 2F1002 研究室	03-5481-3245	okajima@kokushikan.ac.jp
宮地	世田谷校舎 10号館 2F1001 研究室	03-5481-5278	tmiyachi@kokushikan.ac.jp
内田	世田谷校舎 10号館 4F1025 研究室	03-5481-5291	uchida@kokushikan.ac.jp
磯谷	梅ヶ丘校舎 34号館 8F 824 研究室	03-5451-8154	isogai@kokushikan.ac.jp

※教員が大学に在学予定の時間等は、次ページの教員在室時間表を参照してください。オフィスアワーは、基本的に先生が研究室にて、学生の質問等に答える時間です。

※オフィスアワー以外の面会・相談なども在室中に短い時間で済む用事であれば、大抵の先生は急用がない限りは応えてくれます。ただし、基本的には相談や面接等は、事前にアポイントメント (Appointment ; アポ) をとってからするようにしてください。オフィスアワーであっても、出張等で不在の場合や、他の相談者などがいるため時間が割けない場合もありますので、事前にアポを取る方がお互いに好都合です。大学生としての自覚をもった行動を心掛けましょう。

※したがって、教員の自宅、特に非常勤講師の先生宅への電話は、先生からの指示がない限りは控えてください。

※メールを活用しましょう。多くの先生が電話よりもメールでのアポの方が好都合です。ただし、教員のメールアドレスは携帯電話のものではありませんので、すぐ返信がくるとは限りません。余裕をもった連絡を心掛けてください。アポの際には、メールの標題に、学籍番号・氏名を明記してください。先生によっては、標題に番号・名前がないとメールを消してしまう場合があります (迷惑メール・ウィルスメール対策のため)。用件が必ずしも標題になくても大丈夫です。「こんにちは」といった標題のメールは即刻消される場合があるので注意してください。

【2015年度 教員在室時間表】

凡 例：

講義中
 オフィスアワー
 在室の場合が多い

※春のみ：春期のみ講義。 ※秋のみ：秋期のみ講義。

※金曜日は文学部関係の会議が集中する日です。会議のある先生は大学にいますが、ほとんど会えない場合もありますので、注意してください。第3または第4金曜日には**教室会議（12：00～）・教授会（13：30～）**があり、教員全員が会議に出るので、その日の午後はほぼ会うことができません。教授会の日程は年間予定表を参照してください。

曜日	時限	1	2	昼休み	3	4	5	6
	時間	9:00-10:30	10:45-12:15		12:55-14:25	14:40-16:10	16:25-17:55	18:10~19:40
月	長谷川							
	岡島							
	磯谷							
	宮地							
火	野口					春のみ	秋のみ	
	長谷川						秋のみ	
	内田	春のみ				秋のみ		
	岡島						春のみ	
	磯谷		町田校舎				秋のみ	
	宮地					春のみ		
水	長谷川							
	岡島							
	磯谷							
	宮地							
木	野口							
	長谷川							
	内田	春のみ						
	磯谷							
金	野口							
	長谷川							
	内田							
	岡島							
	磯谷							
	宮地							
土	内田							

※長谷川先生：春・秋学期ともに、月曜日と金曜日は、日本地理学会業務のため不在の可能性もあります。

【 2014 年度 国士舘大学地理学会冬季巡検(横浜港巡検)報告 】

2014 年度 2 回目の巡検となる冬季巡検が、2015 年 2 月 11 日に神奈川県内で実施されました。参加学生は計 10 名（1 年生 6 名，2 年生 4 名）で、引率教員は加藤先生にお願いしました。また、オブザーバーとして宮地先生にもご参加いただきました。今回の巡検では、「流通からみた横浜港の様相」について学ぶことを目的としました（図 1）。

2014 年度 国士舘大学地理学会 冬季巡検 概要

- ・日 程：2015 年 2 月 11 日(水)
- ・テ ー マ：流通からみた横浜港の様相
- ・引率教員：加藤幸治先生
- ・集 合：みなとみらい線 日本大通り駅
- ・行 程：.....徒歩, _____電車
日本大通り駅 9:40.....横浜税関資料館 10:30.....大さん橋 11:00.....中華街 12:45.....
元町・中華街駅 13:06 新子安駅 13:28.....日産横浜工場 14:00~16:00.....JVC ケンウッド 16:20.....
生麦事件碑 16:40.....生麦駅解散 17:00

図 1. 横浜港巡検の概要

日本大通り駅で集合した後、まず横浜税関資料館前にて加藤先生から横浜港の歴史的役割について解説していただきました（写真 1）。横浜税関資料館では、横浜港の開港当初の様子や昔の税関の資料、ワシントン条約後の輸入形態についてなど、横浜に関わる様々な資料が展示されていました。その後、大さん橋に移動しました。ここでは、横浜のベイエリアが、港町らしい「白」を基調として開発されていること、また港から町中にかけて建物の高さが高くなるスカイラインを形成していることを加藤先生から伺いました（写真 2）。その後、中華街へ移動し、お店の看板や雰囲気を感じさせるなか、各自昼食をとりました（写真 3）。



写真 1. 横浜港の歴史的役割について解説する
加藤先生



写真 2. 大さん橋から MM21 地区を概観



写真 3. 中華街の東門「朝陽門」
守護神の青龍神も描かれています。



写真4. 日産自動車横浜工場へ
エンジン工場です。

昼食後、電車に乗り日産横浜工場を見学しました(写真4)。日産自動車は、1933年に自動車部品から最終組み立てまで行う一貫生産工場をもつ自動車製造会社として横浜の地に創立し、日本で初めて誕生した量産工場でした。現在は、エンジンの生産工場として知られています。日産横浜工場の見どころは、なんとといっても自動化されたエンジン組立ラインです。2004年から操業を始めたMR型エンジンの組立ラインは、工業用ロボットを数多く採用し、自動化率40%のラインになっています。このほか機械加工工場のなかでは工程途中の部品の移動や、機械工場から組立ラインへの部品の移動に、無人運搬車がたくさん使われています。

日産横浜工場のゲストホールに到着後、最初に会議室にて日産横浜工場の歴史や生産概要について説明を受けた後、工場内を見学させていただきました。工場内は撮影禁止なため、無人運搬車が動いていることがわかるように大きな音を出しながら動いている様子や機械が部品を組み立てている様子などをここでは紹介できませんが、近未来的な工場でした。ゲストホールの入口には、最新型の電気自動車も展示されていました(写真5)。2時間ほどの見学は、とても学ぶところが多かったです(写真6)。そして、巡検の最後には、徒歩で生麦駅まで向かいました。その途中、幕末に起きた生麦事件の碑を見学しました(写真7)。一日を通して、横浜は港を中心に流通によって発展していった都市であることがわかりました。



写真5. 電気自動車：LEAF



写真6. 日産横浜工場ゲストホール入口で集合写真



写真7. 生麦事件の碑を見学

私たちは、この巡検を通して沢山のことを学ばせていただきました。参加してくださった方々に、今回のテーマである「流通」に関して少しでも多くの知識が身につけていることを願っています。そして、今回の巡検の計画を立てる段階から親身に相談にのっていただいた加藤先生にお礼申し上げます。また、参加者の方々の協力のおかげで、当日はトラブルもなく無事に巡検を終ることができました。ありがとうございました。

国士舘大学地理学会行事部 諸橋 夏海

【 活躍する卒業生(5) 】

シリーズ「活躍する卒業生」の第5回目。今回は、2007年度に大学院人文科学研究科を修了された藤田泰文さんです。藤田さんは、現在建設コンサルタントのお仕事をされています。学部生や大学院生の時に学んだGISや地域調査のスキルをフル活用され、活躍されています。お忙しい年度末から年度はじめに藤田さんから貴重な原稿を寄せていただきました。

--**--

近畿実測株式会社（建設コンサルタント） 技術部 藤田 泰文

私は、現在の会社へ2008年に入社し、建設コンサルタント会社の技術部で仕事をしています。主な業務内容は、地形や周辺環境を調査して、その地域の管理手法を提案することです。国土館大学に在学中は、ivusa（国際ボランティア学生協会）やJYMA（日本青年遺骨収集団）に所属し、国内外でボランティア活動をしていました。学部2年生の頃、中国の西安にある黄土高原の植林活動に参加し、人の役に立つ仕事+技術者を志すようになりました。気が付いたら大学院生になっていて、GISやリモートセンシングの技術を利用した自分の研究に没頭し2年が経過したとき、縁あって今の会社からお誘いいただき、何も考えず技術者の門を開いてから、もうすぐ6年が過ぎます。この文章を書いていて、無計画で自分勝手な人生を歩んできたなあと思います。そんな私も4年前に結婚し、今年の秋には子供が産まれます。これからは、計画的で家族第一の人生を歩んでいこうと思います。

建設コンサルタントという仕事を少し紹介します。建設現場に行くというイメージがあるかもしれませんが、実際の現場は、発電プラントがあれば河川もある、森林もあるし災害現場にも行きます。様々な現場の地形や周辺環境を点検・測量・調査して、報告書を納品します。毎年、簡単な卒論を何本も執筆している感じです。少し卒論と違うのは、自分の作った報告書が、誰かの役に立つ可能性が高いということです。そのレスポンスは、学术论文よりも早く、喜んでくれる人の顔を直接見ることが出来て、卒論の数倍の達成感が得られます。この達成感のおかげで、仕事を続けられています。しかし、得られるものは達成感だけではありません。現場は近くに来てくれないため、出張がとても多いです。建設業と密接に関連しているため、7月～3月末はかなり忙しいです。達成感と共に、家族と会えない孤独感も同時に得られます。

仕事の一例を紹介すると、ダムの堆砂量を算出するためにマルチビーム測深システムと地上型3Dレーザースキャナー（TLS）を使用した地形・堆砂測量を行う業務があります（写真1）。TLSでは計測できない範囲は、外注でUAVに航空レーザースキャナーを搭載して測量を行ったりもします。TLSの計測データには、樹木等の地形以外の物体も計測されるため、フィルタリング処理を行って地形面だけを抽出し（図1）、最終的に水中から陸上部までの地形が点群で表現されます。この点群をメッシュ化して、前回データと比較することで、経年的な変化が把握でき、様々な計画に利用できる成果品となります。



写真1. 災害現場における地形測量の様子



写真2. マルチビーム測深システムを使用した
ダム堆砂量の調査状況

ここまで読んで、ちょっと難しそうな仕事だなと思う人が多いでしょう。「コンサルの仕事は、大学院を出ないと無理だよな。」と友人に言われたこともありましたが、確かに、大学院ではより専門的な調査技術を習得することが可能です。礼儀正しきだけ欠けていなければ、即戦力に近い人材になると思います。しかし、学部4年間の授業で、すでに技術力や基礎的な知識は身につけています。磯谷先生と同行した植生調査は、今の現場と同じ環境で、すぐに業務に慣れることが出来ました。また、UAV や TLS を使った 3 次元測量を行う災害復旧の業務では、長谷川先生から習得した GIS やリモートセンシングの解析能力・測量技術が、そのまま直結しています。さらに、地理学の強みでもある多角的な視点は、様々な現場に即応できる適応能力となって、私を助けてくれています。

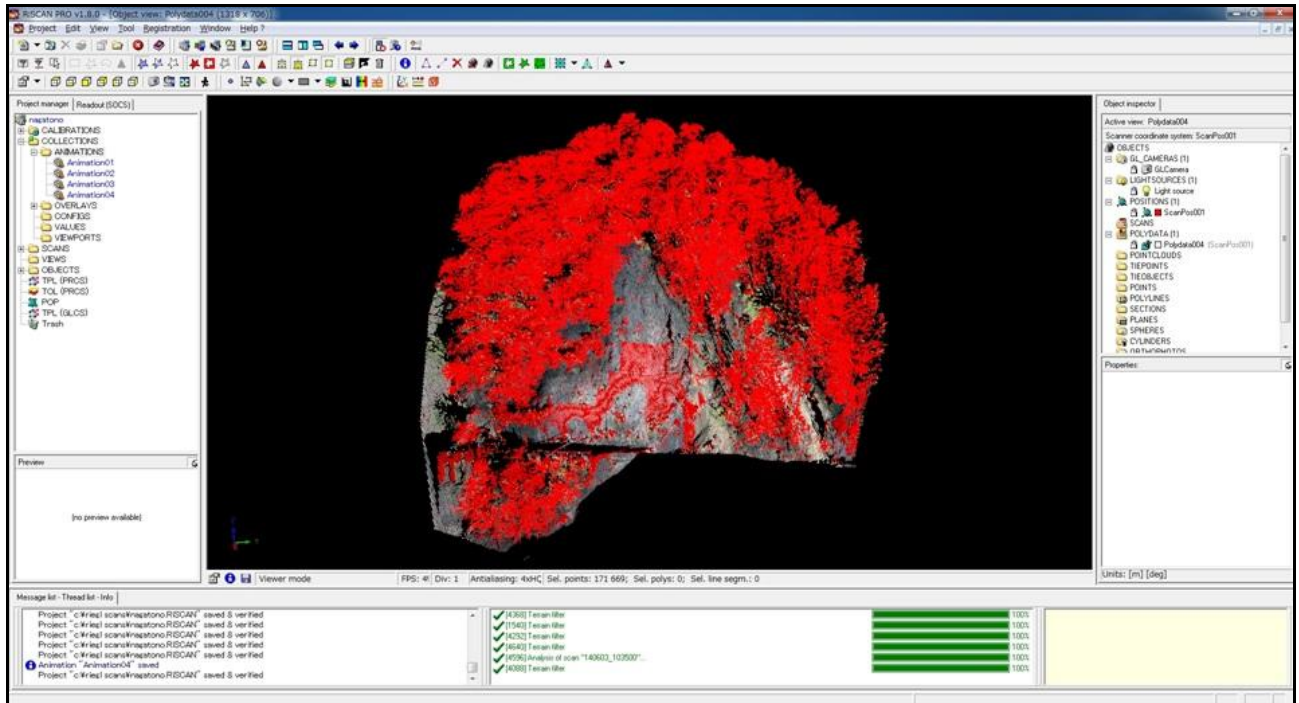


図 3. フィルタリング処理の様子

※地形以外の点群を抽出した結果

赤色：地形以外の点群（樹木・ロックネット・構造物等），その他：地形（土砂・岩）

これから技術者を目指すなら、学部4年間の技術力でも十分ですが、大学院進学も視野に入れて研究に没頭するのも悪くはないでしょう。授業で感じる好奇心は、将来の職業に直結します。好奇心を感じたら迷わず進んで下さい。それが、あなたの天職になるかもしれません。

【就職活動体験談(2014年度:その2)】

前号(60号)に続いて、2014年度の卒業生の何人かから、就職活動体験談を寄せてもらいました。以上の就職先に内定を得た学生のうち、何人かに就職体験談を寄せてもらいました。質問内容は次の通りです。次の1~12の質問内容に対する回答を掲載しています。

1.氏名, 2.内定企業名, 3.業種, 4.職種, 5.その企業を選んだきっかけは何か?6.内定までの流れ(時期と選考内容), 7.やっておいてよかったこと, 8.面接で聞かれたこと, 9.失敗談, うまくいかなかったこと, 10.この企業に就職することを決めた理由は? 11.面接が不合格だった後に努力や工夫したこと, 12.後輩へのメッセージ(アドバイス)

1. 王 シチン
2. 国士舘大学大学院人文科学研究科地理・地域論コース

3. 大学院学生
4. 人文科学研究科 修士課程
5. もっと知識を身につけたい、研究をやり続けたいという気持ち。将来の進路を考えて進学を決断した。
6. 2015年3月8日 試験(二期 留学生選考) → 3月10日 合格発表
7. 4年の最初から準備を始めた。卒業論文提出後から試験までの2ヶ月半の間に、知識補充と試験対策を行った。
8. この大学(大学院)を志望した理由、研究目標と内容、将来の進路など。
9. 面接の準備不足。緊張すぎて、質問に対してうまく説明できなかったこと。
10. 私が研究したい経済地理学の指導をいただける先生方がいらっしゃることで、留学生の支援体制が充実していること。他大学の大学院への進学も検討したが、指導教員の専門分野や留学生への支援体制の充実度合いから、国士館大学大学院への進学がもっとも適していると判断した。
12. できるだけ早く、自分の将来を慎重に考えてください。

1. 田中 貴
2. 学校法人希望学園
3. 高等学校
4. 学校事務職員
5. 学校現場で仕事をしながら、引き続き教員を目指すことができる環境があったため。
6. 2月上旬: 履歴書等の書類を提出(1次選考)
2月下旬: 筆記・面接試験(2, 3次選考)
2月下旬: 採用
7. 私立学校の求人情報を常に確認すること
8. 学園を選んだ理由、この職種を選んだ理由等
9. 特になし
10. 学校現場で仕事をできる点
11. とくになし
12. 諦めずに頑張ってください。

1. 中神俊也
2. 東京シティ青果株式会社
3. 青果物卸売業
4. まだ決まっていません
5. 宮地先生から勧められたのがきっかけです。
6. 企業研究セミナー(4月中旬) → 筆記選考(4月下旬) → 一次面接(4月下旬) → 役員面接(5月上旬) → 内々定(5月中旬)
7. ゼミでの活動(当たり前ではありますが…)
8. 志望理由、居住地、大学で何を学んできたか、入社したらどのように仕事したいか等々
9. 筆記選考の時点で落ちることも多かったのですが、SPI等をしっかり勉強すればよかったかなと思います。面接では緊張してしまい、面接官に伝えたいことが思うように伝わらず、上手くいかなかったです。
10. 食べるのが好きなので、食に関わる仕事がしたいと思っていました。日本の食を支える、直の現場にとっても魅力を感じ、就職することを決めました。卒業生が活躍していることも決め手の一つになりました。
11. 面接では緊張しやすい性格なので、言葉を全て暗記するのではなく、ある程度の単語や一文だけ面接官に伝わるように心がけました。落ちた時は反省するところは反省して、次に向けて気持ちを切り替えていました。
12. わからないことだらけで大変だと思います。けれど、就職活動はゆっくり自分と向き合うことのできるとても貴重な時間です。面倒くさながら自分と向き合って、自分が働きたいと思う会社を見つけて下さい。

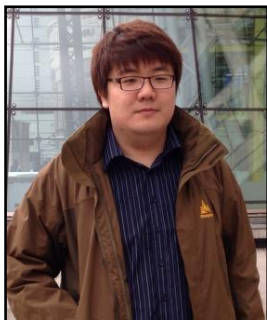
1. 中村友美
2. 北日本銀行
3. 金融業
4. エリア全般職(総合職)

5. 金融業界を中心に就職活動を進めており、小さい頃から馴染みのある企業だった
6. 2月上旬：エントリーシート
3月上旬：一次選考（個人面接）
3月下旬：二次選考（筆記試験）
4月上旬：三次選考（個人面接）
4月下旬：最終面接（集団面接）
5月上旬：内々定
7. キャリア支援センターによく顔を出したこと
8. 友達にどういう人だと言われますか？など
9. 集団面接で周りを気にし過ぎてしまったこと
10. 東北地方から関東にかけて広い範囲に支店が多くあることと、人事の方々や働かされている方々に温かみを感じたから。
11. 常に面接で聞かれた内容や答えた内容、反省点をノートにまとめるようにした。
12. 初めてのことでばかりで不安なことも多くあると思いますが、たまに息抜きしつつ、焦らず頑張ってください。

1. 西谷翔太
2. 横浜市交通局
3. 運輸業
4. 地下鉄運輸職員（駅務員・運転士）
5. 在学中に小田急電鉄にて駅務員のアルバイトをしており、何十万人、何百万人という人たちが利用する鉄道を支える一員として働けたことにやりがいを感じ、一生の仕事として続けたいと感じたから。
6. 8月：履歴書（エントリーシート）提出
9月：一次試験（筆記試験）
11月：二次試験（適性検査・集団討論）
12月：三次試験（個人面接・健康診断）
12月：内定
7. 何回も色々な面接を重ねること。
8. 主にアルバイト先（小田急電鉄）でのことについて、小田急電鉄と横浜市交通局の違いについて、自分が入社した際のセールスポイント 等
9. 集団面接では、地理・環境専攻で学んだことやアルバイトのことを話して個性を出すことができたが、個人面接では自分を上手くアピールすることができなかったこと。
10. 鉄道員として働きたくて、最後の一社で内定をいただけたから。
11. たまたま縁がなかったと気持ちを切り替えること。
12. 私が就活を始めた当初は、様々な業種を受けていました。しかし、途中から自分のやりたい仕事は鉄道での仕事だと思い、何が何でも鉄道（運輸）の業界で働きたいという気持ちに切り替えて就活をしてきました。自分はこういう仕事したいんだという気持ちが、説明会や面接を受けるなかで感じるができるかもしれません。その思いを大切にして、そしてその思いを就職試験、面接でぶつけてください。

大学院生紹介

修士課程1年 王 シチン



4月に大学院人文科学研究科に入学した王 シチンです。私は、中国山東省の萊陽市出身です。山東省は中国華北平原の東部、黄河の下流に位置しています。東には黄海が広がります。萊陽市は山東省の東部にあり、丘陵地の多い山東半島のほぼ中央部に位置しています。気候は、夏になると蒸し暑く、冬になると乾燥して寒いです。地域の産業は、第二、三次産業を中心にしてはいますが、農業も盛んな地域です。地元の有名な農産物は梨です。萊陽市は、別称で「梨郷」と呼ばれています。「萊陽梨」は有名なブランド品です。次ページの写真は、梨園と梨の花です。

私は農業・農村に関心をもっています。学部生のときは、宮地ゼミに所属していました。大学院での研究内容は、中国における日系食品企業の進出とその地域農業へ与えた影響に関する研究を考えています。1990年代から日本の食品企業の中国への進出が急速に進みました。しかし2000年以降になると、中国産食品の安全性問題の発生、日本国内の少子高齢化や景気の停滞、中国国内の経済成長などの影響を受け、日本の食品企業による中国進出の目的は多様化してきました。とはいえ、進出企業は開発輸入を目的とした企業も多く、進出先の農業地域との関係性も強いと言われています。近年では、中国産農産物や加工品でしばしば問題になる食材の安全性問題等に対するリスクを回避するために、進出形態が投資を伴わない生産委託や提携による食材調達が多くなっていく比重を占めているとも言われています。この生産委託や提携などの食材調達の実態や変化を捉えることが、重要な研究課題であると私は考えています。



私の卒業論文では、日本におけるグリーンツーリズムの地域性を取り上げました。この研究を進める中で、私は一つのことを勉強しました。それは多様な視点・指標から現象を捉える重要性です。日系食品企業の進出は、企業側が利潤を増大させるために行われるものである一方で、企業との関係性が構築されることが中国の農村部の農業にとっても重要な意味があるのかもしれない。このあたりを考えてみたいと思います。

修士課程の二年間、時間は限られていると思います。私は緊張感をもっています。充実した大学院生活を送りながら、日本や中国の農業や農村問題を考える力を身につけたいと考えています。今年は、宮地ゼミの3、4年生のゼミにも参加しています。学部生の皆さんと一緒に頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【 国土館大学地理学教室の Facebook が立ち上がりました 】

地理学教室では、4月より Facebook を立ち上げました。ホームページの立ち上げも、全国の地理学教室に先駆けて公開されましたが、今回、SNSによる情報発信を行うことに踏み切りました。学生の皆さんはもとより、多くの皆さんに注目してもらいたいと思います。これからもご注目ください。